

平成 20 年 2 月 16 日
組織行動分科会 坂入

組織行動分科会議事録

日 時：平成 20 年 2 月 16 日（土）14:30 ～ 18:00

場 所：上中里 農林水産政策研究所

参加者：石橋、近藤、茂木、河東、加藤、高橋、安孫子、柴田、坂入

議 題：①柴田氏復帰の件

②分科会規定の設定について

③研究テーマについて

④連絡ツールについて

【内 容】

1. 柴田氏復帰

- ・失敗学懇談会立上げ期の世話役の柴田氏が、当分科会に復帰することとなった。

2. 平成 20 年の活動について

(1) 前回の議事録確認

(2) 分科会規定の設定について

①運営組織の検討について

- 坂入氏がまとめた組織図を修正し、メンバーに運営上の役割を割り振った。

②正規会員資格について

- 坂入氏が作成した会員資格規定のスライドを元に議論。

- ・原案では、正規会員と非正規会員のメリット・特典に違いが見られない。通常の学会では、正規会員だけに、「発表の機会」、「学会誌への投稿」、「投票権」などが与えられる。
- ・主眼は情報のただ取り防止。当分科会の基本ルールである「ギブアンドテイク」の精神で互いに研究成果や情報を出すことを再確認し、情報発信案を検討。
- ・案：ファイルなどの資料管理は SNS で正規会員専用とし、イベント情報や、議事録の一部を非正規会員に知らせるのは ML（メーリングリスト）。
- ・案：非正規会員は、メルマガ会員とする、外部の共同研究者（非正規会員）には、必要な情報を別途流す。
- ・案：分科会の休会者は、失敗学会の会員であるので、学会 HP への議事次第の掲載と、イベントの記録掲載で必要な情報の提供はできるのではないかと
→議事のサマリーと、イベントのサマリーの学会 HP への掲示の検討
→次回までの課題として、①会員資格の付与についての検討、②プレミアム特典の

検討を各幹事会にて実施する。

→規定検討は次回。なお、規定を作る際には会の所在地を設定する必要がある。
代表者の住所なり、失敗学会の事務局の所在地なりということが必要である。

3. 研究テーマについて

●1月例会にて提案された研究テーマについて、どのように実施するかを検討。

- ・体制的には、研究員と、補助研究員という形になると思われる。
- ・具体的なテーマと視点的なテーマが混在しており、検討を要する。過去のテーマを見直すことも考えられる。
- ・人事評価システムのテーマ：経営効率向上の目的で人を減らす方針が、現場では人減らしが目的となる場合がある。上位者とのコンセンサスなど調査が必要。
- ・組織風土との相関性は示唆できないか。最近企業の安全文化を捉える尺度を作る取り組みが出始めている。組織風土の劣化も重要なテーマ。研究テーマの選定にもこのような観点が必要になる。
- ・企業の安全風土についてのアンケート調査で、傾向くらいは出せるのではないか？
- ・各種調査の課題：アンケートの信頼性、警察には問題点を話すが本社の人間には話さないなど。
- ・事前にルール化すべき項目として、研究テーマ設定に必要な項目、情報収集方法（企業などへのヒアリング手法）などが挙げられた。

→現在の研究テーマの具体的なイメージをするために研究テーマのサマリー（①目的、②手法、③仮説、④成果）を3行程度でまとめ、次回発表する

4. 連絡ツールについて

先月の例会の課題として、「過去の議事閲覧を容易にするために、非公開方式でメンバーのアクセスが簡単で、連絡ツールとしても使えるSNSの活用（候補 mixi）の使い勝手」を調べた。外部へのアピールが可能となるなどのメリットも考えられたが、mixiはjpgファイルだけしか置けないことが判明した。

以上

～次回の組織行動分科会は

3月30日（日）場所は未定～
